

自然の家のリニューアルに関する基本的な考え方(案)

1. 神戸市立自然の家の概要

○設置目的

自然環境の中での野外活動及び集団生活を通じて青少年の健全な育成を図るとともに、市民の生涯学習に係る機会の提供に資する。

○施設概要

- (1) 位置 灘区六甲山町中一里山1-1
- (2) 沿革 昭和37年7月 六甲ユースセンター開所
 昭和48年9月 六甲施設を拡充し、自然の家に名称変更
- (3) 面積 約3ha (山林部等も含めた敷地面積は約23.5ha)
- (4) 施設

施設名	宿泊棟		キャビン施設	テント施設
	摩耶施設	六甲施設		
面積	2,728 m ²	2,599 m ²	593 m ²	255 m ²
定員	192人	184人	104人	80人
竣工	平成3年	昭和48年	昭和38年	昭和38年
設備	宿泊室 食堂、浴室 多目的ホール 研修室 工作室 事務室	宿泊室 食堂、浴室 体育館 研修室 談話室 事務室	宿泊キャビン14棟 集会室兼食堂 シャワー	テント施設16か所 集会室兼食堂 屋外食堂

(5) 施設での活動プログラム例

- ・野外
 カヌー、アーチェリー、オリエンテーリング、炊さん、フィールドアスレチック、キャンプファイヤー等
- ・屋内
 ハンドクラフト、キャンドルファイヤー、室内スポーツ、伝承遊び(けん玉等)等

(6) 利用者数(令和元年度)

29,799人
 (宿泊 23,847人、日帰り 5,952人)

2. 現状・課題

○利用者数が減少するとともに、市内小中学校の利用形態も変化している。

- ・施設の利用者数が、平成 28 年度の 34,440 人から、令和元年度は 29,799 人へと減少している。
- ・宿泊を伴う行事の見直しにより、市内小学校の利用形態は日帰り利用（校外学習）となっている。
- ・市内中学校の利用形態は宿泊利用（1泊）であり、今後も一定の利用が見込まれる。
- ・今後、学校利用を促進するためには、授業と連動したプログラムの充実が不可欠である。また、雨天時でも活動できる場所・プログラムも求められる。

○施設が老朽化している

- ・施設の大半が供用開始から 60 年近く経過している。
- ・六甲施設は、老朽化に加え、結露や湿気による壁や床、天井の傷み等が立地上抜本的な解消が困難なため、宿泊施設として快適な環境を維持することが難しい。
- ・平成 3 年度に建替えた摩耶施設についても、設備面の改修が必要となっている。

○施設の有効活用の余地がある

- ・市内中学校の宿泊利用が 4～6 月の平日に集中しており、団体利用も夏休みがほとんどであることから、宿泊棟をさらに有効活用する余地がある。
- ・学校園・団体の利用のための社会教育施設であり、家族単位での野外活動の需要には対応していない。
- ・国立公園内の大自然に恵まれたロケーションでありながら、テント施設やキャビン施設が低利用となっている。

○民間のノウハウ・活力が十分に導入できていない

- ・指定管理料の範囲での運営であり、指定管理期間も 5 年間であることから、民間の自由な提案や民間資金を活用した事業を創出し、回収できる期間的余地が少ない。
- ・平地が少なく、現状の施設配置では、活動場所やアクティビティを増やすことが難しい。

3. リニューアルに関する基本的な考え方

下記を目的として、(1)(2)の考え方に基づき、リニューアルを進める。

- ① 学校・団体利用に加え、家族単位等の利用を受け入れ
- ② 近隣施設・資源との連携や、民間活力の導入により野外体験活動を充実

(1) 学びの場としての野外活動プログラムや施設の充実

① 摩耶山エリアの豊かな自然環境を活かした野外活動プログラムを充実させ、学校園や子どもたちの利用を促進する。

- (例) ・日帰りでも活用可能な環境体験学習等のプログラムの充実
・専門家や周辺施設との連携による学習・活動のサポート体制の強化 など

② 学校園や青少年団体が安心かつ快適に利用しやすい施設となるよう、摩耶施設を改修し、宿泊機能を充実させる。一方、六甲施設は、雨の日の体育館活用等、活動場所として主に利用することとし、宿泊は原則として摩耶施設を利用するものとする。

- (例) ・摩耶施設の設備改修やユニバーサルデザイン化
・摩耶施設の定員拡大による、宿泊機能の集約 など

(2) 民間のノウハウ・活力を活かした魅力向上や収支改善、運営の効率化

① これまでの学校園・青少年団体等に加え、家族等を対象にした新たな利用形態についても民間事業者(指定管理者)からの提案を募り、より多くの市民に利用いただくことをめざす。

- (例) ・学校園利用が少ない季節や曜日に家族利用の受け入れ及びそれに伴い必要となる施設や設備の改修
・利用料金制による一定の受益者負担の導入 など

② 民間事業者の提案内容もふまえ、施設の改修・増設・新設や、老朽化している施設の機能の廃止・転用など、施設の整備・再配置を行い、施設全体の魅力向上や運営の効率化をはかる。

- (例) ・家族等の利用が見込める施設(テント施設等)の拡張
・駐車場の増設 など

③ 個人・家族向けを中心とした、集客力があり教育効果の高いアクティビティなどの自主事業について、自由な提案を求め、民間の創意工夫・資金による付加価値の向上をはかる。

- (例) ・穂高湖などの資源を活かした民間ならではのアクティビティの創出
・登山者等が立ち寄れるオープンエリアの設置(物販等)
・民間事業者の投資が見込める場合、指定管理期間を10年とすることも可能とする など

【資料2：自然の家リニューアルに関するアンケート結果】

1. 概要

- ・実施期間

令和4年4月1日～4月13日

- ・実施方法

神戸市ホームページ上でのアンケートを実施

(神戸市ネットモニターへのメール及び自然の家ホームページでアンケートを周知)

- ・有効回答件数 1,667件

年 代：10代以下/0.4% 20代/4.3% 30代/12.6% 40代/26.8%
50代/26.4% 60代/18.8% 70代以上/10.7%

利用経験の有無：利用経験有/39.0% 利用経験無/61.0%

2. アンケート結果抜粋

(1)自然の家の良い点（上位3つ）

- ①自然が豊か
- ②市街地から近い
- ③六甲山上や摩耶山上の他施設を楽しむことができる

(2)自然の家の悪い点（上位3つ）

- ①施設が古い・汚い
- ②団体以外では利用できない
- ③当日の飛び込み利用ができない

(3)自然の家のリニューアルイメージ（上位3つ）

- ①屋外でのキャンプやバーベキューが楽しめる施設
- ②日帰りの活動プログラムやアクティビティが充実した施設
- ③自然の中で体験事業を楽しめる施設

(4)自由記述欄に寄せられた内容（主なもの）

- ・貴重な子どもの体験活動の場となる社会教育施設として、未永く継続してほしい
- ・イベントなども含めて様々な体験活動ができる施設にしてほしい
- ・団体の利用者だけでなく、家族で楽しく安全に自然が楽しめる施設にしてほしい
- ・少人数でもキャンプが体験できる施設にしてほしい
- ・若者が使いやすい施設にしてほしい
- ・トイレ等の水回りをきれいに、現代の子どもでも使いやすいものにしてほしい
- ・バリアフリーな施設にしてほしい